

東北大学学報 第1249号 (1989.6.1) _改組について

報 知

◎研究所及び附属施設等の改組について

平成元年 5 月 29 日付けで、次のとおり改組がありました。

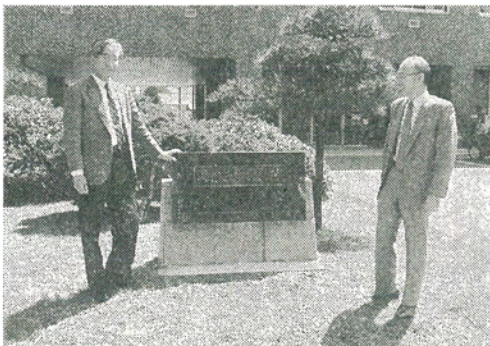
○流体科学研究所

高速力学研究所は、昭和18年10月に「流体機械の高速小型化・高性能化」を達成するために、流体の高速流の研究を行うことを使命として創設されました。以来今日まで、高速液流中に発生するキャビテーション現象の解明を始め、熱・流体工学の分野を中心に多くの研究成果を挙げてまいりました。しかしながら、設置後約半世紀を経過した今日、高速力学研究所では、研究所の将来計画を策定する上で現在の研

究体制の全般的見直しを行った結果、設立当初の設置目的はほぼ達成されたものと判断し、ここに、新たに「流体科学研究所」に改組して再発足することが決定されたものであります。

流体科学研究所の使命は、21世紀の流体科学ともいうべき研究領域、すなわち、(1)時間、空間、ならびに環境条件を極限にまで追求した時に得られる流体の諸現象の解明、(2)流体のミクロな組織の物理化学的变化に基づき諸機能を発揮する流体の開発と応用、(3)極限流体現象や機能流体の特性を利用した応用技術に必要な流れと熱伝達のミクロな制御法の確立という3つの広領域の先導的な研究を行うことにあります。

流体科学研究所の研究組織は、極限流体現象の研究を行う4部門（低密度気体、超高流速、高圧融体、極低温流）、機能流体の研究を行う4部門（非平衡磁気流、複合流体、反応流体、熱流体物性）、流れと熱伝達の超精密制御の研究を行う4部門（伝熱制御、構造システム制御、流動場制御、環境シミュレーション）の計12部門と、昭和63年度に新設された衝撃波工学研究センターで構成されております。



(新しい銘板の前に立つ神山所長と鈴木事務長)